

タッチダウンスペース利用状況

有効活用されている場所

有効活用されていない場所

北地区

総合教育棟



人間社会
第1講義棟

人間社会
第2講義棟

学生会館

自然科学
研究棟



課題学習、協働、交流、休憩のように多様な使われ方をされている

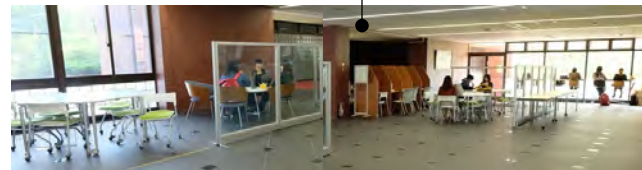
冷温時には使用に制限がかかるという課題

台形テーブルが導入されているが、利用頻度が低い授業の待ち時間の休憩程度になっている

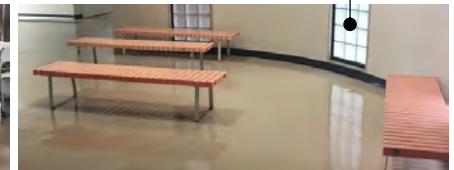
個人での利用に限定されている

待ち合わせ場所として利用されている時間つぶしだけの場となり、学習にも休憩にも適していない

台形テーブルやPCブース、カウンターが導入されているが、講義中は使用されていない、もしくは静かに休憩をとる場所や個人学習の場となっている

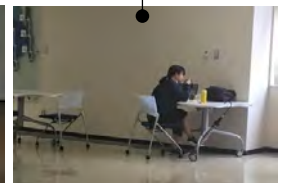
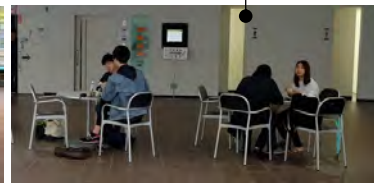


授業前の待ち時間に腰掛ける程度しかできない



動線にあり、食事も学習も落ち着いてできない

台形テーブルが導入されているが、利用頻度が低い授業の待ち時間の休憩程度になっている



改善提案サマリー

すぐに着手可能

教室内の席数の設定：高すぎる密度の解消

可動式であっても密度が高い場所だと家具を入れ替えた効果が乏しい

ユーザー親和性を鑑みた学習機の有効活用

小学生から高校生まで使ってきた学習机は、学生自身が給食・係決めなど協働に使ってきた身体的記憶が存在している為、特別な机でなくとも可動性高くアクティブラーニングに有効活用される



教室内

将来的な改装

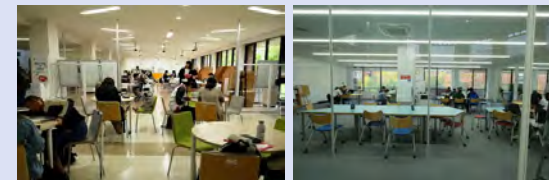
教室内のキャパシティマネジメントプランニング

現状：常時最大必要数が置かれている状態（センター試験会場仕様）

あるべき姿：椅子・机の出し入れが可能で、必要な時には最大必要な席数を確保できるような建物全体のキャパシティマネジメントが不可欠

間仕切り壁の透明性の確保

自然研のプロムナード・総合教育棟2Fのように、近接して課外学習ができる場があると、休憩と授業の切り替えがよりスムーズとなり、アクティブラーニングルームのようにインタラクティブな関係性を生むことができる



・小さなタッチダウンスペースの設置

ただ机・椅子を置くだけでなく、利用シーンを想定した家具の選定、パーティションの設置等



教室外

アートや黒板等の備品による場所の性格づけ

廊下との差別化を行う環境・文化的包括性を実装する



寒暖差が大きい場所の空調方式の検討・照明などを活用した文化的包括性のある人間にとってふさわしい環境づくり

現状は無機質な工場・倉庫のような作りに

自然研であれば床吹き出し空調や入れ子状に空調エリアを確保するなど

教室の防音対策・電源の確保

機能性高く利器を活用しやすい学習環境を作ることで教育の柔軟性を向上

仕上の変更や、視覚的に変化のある間仕切り壁の設置による性格づけ

